

ガリバートンネルで数の大小を見つけよう

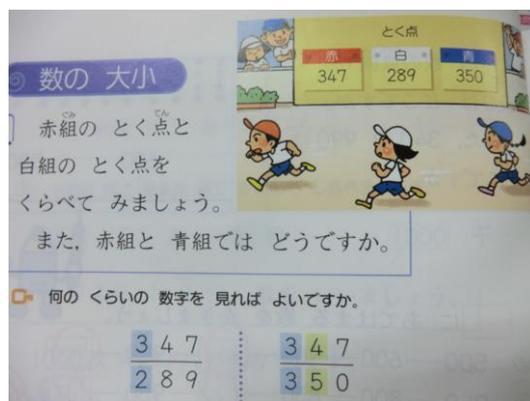
単 元	1000までの数—数の大小—	対象学年	2 年
ね ら い	十進法位取り記数法のしくみをもとにして3位数の大小を比較することができる。		

1 準備するもの

教師： トンネルの絵， 大小の図

2 学習のしかた

- (1) 赤組の得点と白組の得点， 赤組の得点と青組の得点を比べました。
- (2) 位の数字を見れば比べられることを気づかせる。
- (3) 数の大小を表すのに、「ガリバートンネル」(ドラえものの道具)を使って， 不等号の大小を指導した。
 - ①「何の道具か知ってる？」と尋ねる。
(ガリバートンネル！)
 - ②大きい入口から， ドラえもんが入ると， 出てくる時は， 小さくなっていることを話す。
 - ③ドラえもんの上に「大」「小」の紙を置く。
 - ④「ガリバートンネル」を簡単に描くと不等号になることを示す。
 - ⑤入口が大きい方が大きい数字になって， 小さい方が小さい数字になることを教える。
 - ⑥ひっくり返して， 向きの違う時も同じであることを教える。



3 学習上の留意点

- ・初めに教材から出合わせた。
- ・「ガリバートンネル」(ドラえものの道具)を出すだけでなく， 実際の不等号に照らし合わせて指導した。
- ・不等号の向きが変わることもあるので， 裏にも同じようにトンネルをかき， 同じように指導した。

<アイディアのポイント>

- ・ 数字の大きい方を食べたいから、不等号を鳥のくちばしや、パックマンなどに見立てて、大きい方を食べるように開くと指導することをしたことがあるが、何名かがどちらに開くのか迷うことがあった。
しかし、この「ガリバートンネル」の方法では、大きく開く方に歩いて行くとドラえもんが大きくなり、小さく閉じる方では、小さくなることを見て分かるので、イメージしやすく、定着しやすい。
- ・ この実践を行った先生は、子供たちの普段の会話の中で、ドラえもんがよく出て来ていて、このアイディアを思いついたようだ。子供たちの興味に合わせることで効果的だと思う。

4 学習の効果

- ・ 一目で見て分かりやすい。
- ・ 数の大小が分からなくて間違える子はいたが、大小が分かれば、開く向きを間違える子は、いなかった。
- ・ まとめのテストの答案から見ても、理解度が高かった。